

子どものための奉仕団体・国際キワニスで、日本国内39クラブ、会員約2千人を束ねるガバナーに1日付で就いた。月に一度は、国際キワニス会長らとオンラインで活動方針などを話し合う。2006年に鹿児島キワニスクラブを立ち上げて15年。障害者施設の子どもを招いてのクルーズ体験、病院への「キワニスドール」寄付などを手掛ける。40歳ほどの無地の人形は、入院中の子が自由に色やデザインを施して遊ぶほか、医師が病状を説明する際にも使う。

国際キワニス日本地区ガバナーに就任した

かお

はし たかひで 林 隆秀さん



以前、被災した子どもに食事を提供していた知人が、ある子どもの「もっとおいしいものが食べたい」という一言に落胆し、奉仕活動をやめてしまった。その出来事が今でも印象に残っている。「奉仕をする側は、喜ば

れるのが当然だと思いつくではない。一方、社会全体で、受け手にも感謝する気持ちを育まなければならぬ」と活動の難しさを語る。国内クラブの課題として、女性会員比率の低迷を挙げる。「ジェンダーギャップ（男女格差）が大きいこの国で、女性目線の新たな取り組みをしたい」と意欲を示す。

伊佐市出身。大学卒業後、27歳で父の建設会社に入社。行動力と豊富なアイデアで多角経営を行い、運輸や介護福祉事業などを展開してきた。これからはエネルギー事業に軸足を置くという。

「若い頃、周囲に『70歳まで働く』と宣言し、冗談だと思われた。だが、もう67歳。少なくともまだ3年は元気に動く」と前向きだ。鹿児島市在住。

(伊賀元彦)